

地域の自然や人材を活用した特色ある環境教育の取組

義務教育課

はじめに

県では、持続可能な社会を構築するために、環境教育を中核としたESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) を推進し、環境の保全やよりよい環境の創造に貢献できる実践的な態度と資質能力を育成しています。

小学校や中学校では、総合的な学習の時間や特別活動などの時間を中心にして、身近な自然環境を対象とした体験活動や地域の人材や施設を活用した環境教育に取り組んでいます。また、自然だけでなく、文化や産業を含む地域の重層性を踏まえた教育活動も展開されています。

本号では、地域の自然や人材を活用した小・中学校の特色ある環境の取組について紹介します。

南魚沼市立第二上田小学校の取組

第二上田小学校では、環境教育を柱にした「誰でも来なくなる学校づくり」を目指しています。環境教育は、地域の生活とかがわっている、学校と地域の連携を作り出します。連携を通して、教師は地域を学び、子どもの理解を深めることができます。結果として、地域からの信頼がより厚くなります。また、子どもは、地域の自然や人にかかわる喜びを感じ、自己有用感を高めています。環境教育の取組が、学習意欲の向上や不登校ゼロに結び付いていると考え、様々な実践をしています。

1 ねらいを見直した「上田の宝探し遠足」

環境教育の視点で遠足のねらいを見直しました。道中で見つけた動植物や人工物などの地域の宝を写真に撮ります。子どもなりの感性で宝と思った物はなんでもOKです。1年生も6年生と対等に参加しています。それぞ

れが見つけた宝を印刷し、宝マップにまとめ、全校で認め、共有し合います。自分の見つけた宝を友達が認めてくれるとうれしくなり、大きな達成感や満足感を得ています。

「みんな、つながってすべろう。」河川敷公園の坂をすべる子どもがいました。自然を楽しむ子どもは、遊びの天才です。全校宝探し遠足では、このような遊ぶ姿を見守るのが、教師の務めであると考えています。



【坂滑りを楽しむ子ども】

2 学習意欲を高める発表

子どもに発表の場を知らせることで、学習意欲が高まります。年度を越えて継続することで、活動や発表の質も更に向上します。

当校は、地域行事やこどもエコクラブを利用して発表しています。例えば、地元NPO主催の「鯉のぼり設置事業」の手伝いを学校から申し入れました。地域の専門家によるデザインを元に、子どもが作った「鳥のぼり」を一緒に飾りました。歌やクイズ、親子エールで設置者を応援しました。当然のことながら、主催者は褒めてくれます。自分たちが作った鳥のぼりを眺めながら豚汁とおにぎりをごちそうになり、充実感を味わいました。



【全国こどもエコクラブ交流会 鳥のぼり紹介】

3 地域の人材を活用するネットワーク

地域人材を活用するために、地域を知る仕組みや働き掛けが必要です。当校は地域教育コーディネーターの設置、上田ふるさと協議



会やNPOの会議への参加を通して、互いの要望を出し合い、連携に取り組んでいます。

例えば、民生児童委員の協力により、月1回の土曜学校開放事業をしています。通常の読み聞かせや自主学習、遊びの他、日本一小さいトンボの見学会、地元の植物を練り込んだ特産品「からむし麺」の試食会などを行いました。このように、地域の方と学校の願いが共有された体験会が実施できました。

(文責 南魚沼市立第二上田小学校)

三条市立栄中学校の取組

栄中学校では、今年で15年間継続して、学区内にある栄翔林でブナ植樹に取り組んでいます。当初この活動は、栄ブナの会が実施していましたが、やがて地元の小学校へ広がり、その後栄中学校にも活動の輪が広がり、平成15年度に栄中学校のブナ植樹が始まりました。当初は1学年全員で植樹していましたが、充足してきたことから、数年前より生徒会緑化委員会の活動の一環として取り組んでいます。

1 地域とともに進めるブナ植樹活動

ブナ植樹活動のねらいは、ブナ林を守り育てる活動を通して、環境と森林資源の重要性を理解すること、そして、地域の人々(栄ブナの会、栄ライオンズクラブ)との共同活動を通して、地域の一員としての自覚と誇りをもつことです。

毎年10月に行うブナ植樹はまず、事前に打ち合わせをして、植樹の本数や参加人数等につい



【苗木の受け取り】

て確認をして活動を進めます。当日は緑化委員会生徒と、各学級で募集したボランティア生徒を合わせて36名の生徒が参加しました。栄ブナの会の20名の皆様から指導していただき、斜面に穴を掘り、苗を植え、支えをつくるなど一本一本大切に植えることを学びました。

2 体験を通して森林資源の大切さを学ぶ

栄翔林には毎年植樹してきたブナの木が大きく育っています。ブナ林を広げるために今年植えた40本の苗木も、大きくなるよう丁寧に植えることができました。

【生徒の声】

自然や地域の人々と関わることがとても新鮮で楽しかったです。今回の体験を生かして、森林資源を守る大切さを実感するとともに、これからもブナの会の皆さんと一緒に活動を続けていきたいです。

この15年間の活動でブナの木が成長して、豊かな里山に変わってきていま



【斜面での支えの打ち込み】

す。生徒はそれを見て体験し、植樹の大変さを知るとともに、緑を愛し、守っていく大切さに気付くことができました。今後はブナの会の皆様のお力を借りながら、維持、広げていくために更に継続していきたいと考えています。

(文責 三条市立栄中学校)

おわりに

各校が創意工夫を生かした特色ある環境教育を進めていくためには、地域や学校の実態に即し、それらの特色を生かした適切な教育課程を編成(全体計画等)、実施、評価し、改善を図ることが重要です。また、指導を外部講師に依頼する際には、任せっきりにするのではなく、事前の打合せを行い、共通理解を図った上で、児童生徒の課題に沿った活動を展開するなど、教師側の工夫と配慮も重要です。今後もそれぞれの学校で、特色ある環境教育を展開し、児童生徒の環境に対する見方や考え方、環境に働き掛ける実践力を育成してください。